



「大人」と「子ども」の境界線は

作家・ドイツ在住 川口マーン恵美

自分は大人だと思っている中学生

日本の大学生は自分を子どもだと思っている。大学生が不祥事を起こすと、なぜか大学の先生が出てきて謝罪をしたりするから、他の人も皆、大学生は子どもだと思っているのかもしれない。しかし、曲がりなりにも最高学府で勉強中の人間には、自分のしたことには100%自分で責任を取ってほしい。

一方、ドイツではその反対で、中学生が自分は大人だと思っている。注意をしてもその根拠を聞いてきたり、また、堂々と反対意見を述べたりするので、親や教師としては常に理論武装が必要でやりにくい。

「何と生意気な！」と腹の立つことも多いが、こうなる理由の1つは、おそらく言葉だろう。ドイツ語では、大人と子どもの使う文章には、原則それほど差はなく、例えば「私もそれが欲しい」というのは、大学教授が言おうが、3



緑の中で集う若者たち

歳の子どもが言おうが同じ文章になる。誰であっても主語はIch(私)だし、それを省略することは文法的にできない。丁寧語はあるが、敬語はないので、言葉で上下関係を表すことも基本的にしない。ドイツの子どもが日本人の目に生意気に映るのは、言葉があまりにも同等だからではないか。

いずれにせよ、女の子の魅力も「子どもっぽい」ことではなく、「大人っぽい」こと。夏場はやけにセクシーな格好で登校してくる中学生も多い。日本の女の子のように甘ったれた話し方などしたら、男の子からは「可愛い」どころか、頭が悪いと同情されるだろう。ちなみに、ドイツでは14歳になると、未成年とはいえ、かなり多くの権利を手にするようになる(成人は18歳)。

例えば、14歳からは銀行口座を開設でき、1人で旅行もできる。その代わりに、万引きなどで捕まると、それまでのようにお目こぼしにはあずかれない。ビールとワイン(アルコール度の高いものはNG)は親が同席していれば飲め、16歳からは親がいなくても飲める。だから修学旅行などで、夜、居酒屋で、教師と生徒と一緒にビールを酌み交わすなどと言うこともある。

高校の国語の教材に仰天

また、14歳からは性交渉が合法となり、女の子は医者でピルを処方してもらえるようになる。しかも未成年はピルが無料。お金がなくてピルが買えず妊娠されると、それこそ大変だか